

平成26年度内外海小学校教育方針

1 ミッション(使命) －学校教育目標以前の前提－

内外海小としての理想の教育を実現し、
未来も子どもたちが幸せであるようにすること！

「子どもたちにどうなってほしいですか？」

→ 「幸福な人生を送ってほしい」

※ 目の前の子どもたちを「良い小学生」にすることが使命ではない。

※ 「未来も」とは、たとえば50年後をイメージする。

これは「キャリア形成」の視点でもある。

自分も異質な他者も社会全体も幸せになる「共に生きる社会」を作り出し・守る力を獲得させるための教育である。

2 ビジョン －学校教育目標－

内外海に誇りを持ち、未来へ大きな志を持つ子

(1) 「内外海に誇りを持ち」にこめた7つのねらい **★**：より重点的なねらい

- ① **★**「知る・体験する」→（「考える（夢・志をもつ）」→「行動する」）
- ② **★**大きな展望・視野の中で行動する基礎・基盤をはぐくめる
- ③ **★**児童のアイデンティティをより強固に グローバル化・不確実な未来対応
- ④ 地域の人々に、未来の地域の担い手を育てることへの参画の機会を作れる
- ⑤ 地域の人々に、児童の学ぶ姿や成長・成果を見てもらい、地域を元気できる
- ⑥ 地域の自尊感情に働きかけ、学校への信頼を得る
- ⑦ 他者のふるさとともに大切にし尊重しようとする人権感覚を養える

(1) - 2 これまで児童や地域に訴えてきた「内外海に誇りを持ち」に関わる内容

<前項のねらいを理解し教育活動を展開する上で踏まえてほしい内容>

- ① 子どもたちが生きる未来は、世界に広がる未来である。そしてそれは、これまで経験したことのない、異質なものと人との出会いに満ちた未来であるはずである。そんなとき、自分のことを誇りを持って語ることのできない者は、最初から相手に信用してもらえない。

だからこそ、子どもたちには、故郷に残っても、また故郷を離れても、出会った人達に、我が子に、自分の故郷がどんなに素晴らしいところなのかを語れる人になってもらいたい。故郷は、子どもたちにとって根となるものである。しっかりした根を持って、はじめて、未来に大きな果実を実らせることができるのである。 <PTA広報 No. 60>

- ② ある調査結果に、自らが生まれ育った地域を「好きだ」と答える子どもの割合は、どの地域でもそんなに高くないというものがある。内外海の子どもたちにはそうあってほしくない。自分を大事にし、親を愛し、身近なものを愛し、自らの国を愛する。そのためにまず自分の足元を大事にできる子どもになってほしい。

これまでの取り組みのなかで「子どもたちは地域のことを知っているようで実はあまり知らない」ということに改めて気づかされた。だからこそ、これからも「ふるさとの誇りととの良き出会いをつくる学習」を大切に続けていきたい。＜P T A 広報 No. 61＞

- ③ 人と共に生きる・自然と共に生きることを考え行動しようとするとき、しっかりした足場となり支えてくれるのが、君たちが共に学んできた内外海の人々・自然・行事・産業つまり「内外海の誇り」の数々であり「ワカサノタカラ」の数々である。

この内外海のおよさを自分がよって立つ足場とし、ここから日本を、世界を見てほしい。

＜H25卒業式・式辞＞

(2) 「未来へ大きな志を持つ」のねらい

①★「知る・体験する」→「考える(夢・志をもつ)」→「行動する」

「知る・体験する」ことは、もちろん内外海にかかわることのみではない。カリキュラム内、カリキュラム外、「無意識のカリキュラム」も含め子どもたちが学校にかかわって出会う内容・事柄のすべてととらえる。それらが、いわゆる「詰め込む知識」「這い回る体験」とならぬよう、児童にとって知識・活動内容との出会いを仕組み演出することが「未来に大きな志をもつ」にこめたねらいである。つまり、児童が「考え」や「夢・志」を持てるように、そしてその実現のために「行動」するよう意図的に指導し、結果を求めることこそが目標となる。もちろん、成し遂げやすさや、必要とする時間・労力の多少は問題ではない。

この教育方針として言葉の定義をするとすれば、次のようになる。

※夢＝自分がどうなりたいか

※志＝自分を含め、みんなを、社会を、どうしたいか

ある事を成し遂げようという気持ち

※大きな志・・・一見、成し遂げ難いと思われるような志

高い志・・・自己の利益に終始せず社会や他者に貢献できる志

※夢の積み重ねが、高い志を成し遂げる

これらのねらいを達成するために「夢に挑戦！輝け内外海っ子」などのスローガンの唱和や、発達段階を考慮して、各担任なりのスローガンまたは偉人の格言などを繰り返し意識させることは有効と思われる。

「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、
実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」 <吉田松陰>

夢や目標を達成するには、1つしか方法がない。

小さなことを積み重ねること。

<イチロー>

3 方 策

(1) 目指す子ども像

- ① 共に学び合い 志を持つ子
- ② 仲間とつながり合う子
- ③ たくましい心と体をつくる子

(2) 目指す子ども像をもとめて

次のような「学びの流れ」を基本として「目指す子ども像」せまるようにする。教育活動を、設定、点検、改善する場合には、この流れに照らし合わせながら検討する。

考える力を養い→ ＜教えて＞	課題を見据えながら→	仲間と共に学び合い→ ＜学ばせる＞	成長を喜べる
確かな言葉の獲得 論理的な思考力 比較・因果・条件	課題を解決すればどう なるかイメージを共有 共同の基盤・見通し	支持的風土を持つ学習集団 思いや考えを伝え高め合う 自己有用感を育む・共同	行動し成し遂げ 笑顔・輝き・意欲 さらなる向上心

(3) 目指す子ども像に近づけるために

① 共に学び合い 志を持つ子

○子どもが自ら学ぼうとする授業の実現のために

- ・授業の基盤としての学習ルールの徹底。(学習ルール8ヶ条)
- ・アシストファイルを活用できたと答える児童90%以上。(2学期末評価)
- ・聞き方・話し方名人、しつもん名人、司会名人カードを活用できたと答える児童90%以上。(2学期末評価)
- ・発達段階に応じ、一人調べ等の予習的家庭学習課題に進んで取り組み授業に生かす。

○児童主体の話し合い学習の実現のために

- ・場に応じた声の大きさを、最後まではっきり話す。
- ★話が終わるまで聞く。
- ★友達の発表を聞いたり、自分の考えを発表したりすることが楽しいと答える児童80%以上。(2学期末評価)

○生き方に結実する授業の実現のために

- ・ESDカレンダーの作成し、活用する。
- ・地域を素材とし、ねらいを明確にした体験活動を計画的に実施する。
- ・夢ゾウファイルを活用し、自己の成長を確かめながら振り返りを行う。

○言語活動をさらに豊かにするために

- ★国語辞典・漢字辞典を、日常的に利用する環境と手立てをつくる。
- ★学年必読書リストの作成と活用。
 - ・故事成語・百人一首等に触れる取り組みを年間継続する。
 - ・家庭読書を推進する。

② 仲間とつながり合う子

○授業を中心として良好な人間関係を築くために

- ・授業がよくわかると答える児童80%以上。(各学期末評価)
- ・学校が楽しいと答える児童80%以上、不登校ゼロ。(各学期末評価)
- ・みんなで何かをするのは楽しいと答える児童80%以上。(各学期末評価)
- ・学校管理下で児童同士、呼び捨てをする児童ゼロ。

○自己有用感を育成するために

- ・授業の中での児童の発言・活動が役に立ったとほめることを重視する。
- ・良いこと見つけ等の自己有用感を高める学級での活動を継続する。
- ・児童の主体性を育てる機会として委員会活動、係活動、給食当番、掃除を重視する。

③ たくましい心と体をつくる子

○たくましい心をつくるために

- ・(書く・音読・読書)のとき良い姿勢を保つことができるようにする。(静筋を鍛える)
- ・チャレンジスイミングの学年目標 達成率80%以上。
- ★担当場所の児童は掃除に集中できていると答える児童90%以上。(各学期末評価)

○たくましい体つくるために(食育も含めて)

- ・木登りの日の設定(毎週木曜日)
- ・志の道を利用した足腰の強化。
- ・家庭での月1回の食事作り運動実施。
- ・児童による健康会議の定期的な実施(年3回)
- ・給食後の歯磨きを徹底する。